

平成21年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)     特定共同研究(B)     特定共同研究(C)     一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究     施設・実験装置・観測機器等の利用  
 データ・資料等の利用     研究集会

2. 課題番号または共同利用コード      2008-C-04

3. プロジェクト名、研究課題、集會名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等  
(3) 歴史地震等の記録の収集，整理及び再評価

英文：Special project for Earthquake Disaster Mitigation in Tokyo Metropolitan Area: I  
Characterization of the plate structure and source faults in and around the Tokyo Metropolitan  
area (3) Collection, cataloging and reevaluation of historical earthquake data

4. 研究代表者所属・氏名    名古屋大学大学院環境学研究科 山中佳子  
 (地震研究所担当教員名)    佐竹 健治

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：歴史地震記録，デジタル化，西埼玉地震，静岡地震

過去の地震及び近代観測がなされて以降の関東地域で起こった地震について記録を収集してきた。その結果、関東地震の余震の記録はほとんど見つからなかった。

平成21年度は、1931年西埼玉地震の地殻変動データの整理を行った。また、1935年静岡地震の記録に対してデジタル化作業を行った。振幅が小さく震源過程解析には使えない記録もとりあえず収集した。

1935年静岡地震はM6.2-6.5程度で、静岡で震度6であったが、被害が最もひどかった地域は大谷・高松地区であった。この地域の地盤条件が悪いためと言われているが、これまでのモデルでは地盤を考慮してもこれほどの被害を出すような揺れにはならないことがわかった。波形解析からこの地震のアスペリティは震源より西側の浅い所にあることがわかった。

1900年代に首都圏周辺で起こった地震に対して、震源距離300km以内の観測点の強震計記録データをデータベース化し、ホームページで公開した。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または2000～3000字の報告書）

（\*<sup>1</sup>論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと）

発表タイトル	著者	学会・セミナー等の 名称 (学会等名)	記載の有無	ポイン ト数
1935年静岡地震断層モデルの再検討（口頭発表）	林能成・小澤 邦雄	第26回歴史地震研究会	無	2